

令和3年度第2回栗東市立図書館協議会（書面開催）結果

通知発送日 令和3年9月8日

回答期限 令和3年9月25日

回答委員 國松完二、吉川なおみ、竹橋貴美子、中島浩子、井上和子、宗本和子、大屋邦代
山元貴弘、鈴木由希子、伊丹桜子

協議結果

1、「第2次栗東市立図書館基本的運営方針(第2案)」について

【委員意見】

○ICタグによる自動貸出機というのは、スーパーで自分でバーコードを読ませる無人レジのイメージでしょうか。

○p9 4-(イ)にある「レファレンスサービス充実のための資料」とはどんなものをさしますか。

○p9 4-(イ)中核機能の充実の6項目目として、「本館、西館の企画調整等管理的機能を統括し、効果的・効率的な運営を行います」とありますが、今はどんなことが効率的ではないのですか。

○何カ所もある「～を充実します」という文言に違和感があります。「～を充実させます」ではありませんか。「させる」では自ら行う力強さが足りない感じがするなら、「～の充実を図ります」「～を拡充します」など他の言葉に置き換えるのはどうでしょうか。

○第2章に「第1次栗東市…方針」のように、「第1次」をつけるとわかりやすいと思います。

○第3章の名称を変更したのはとてもわかりやすいと思います。

○p9 3-(イ)視覚障がい者等の読書環境の整備の2項目目について。視覚障がい者等が利用しやすい資料の収集として大活字、CD ブックが列挙されていますが、DAISY(デージー)図書も加えたほうがよいのではないのでしょうか。

○p9 3-(イ)視覚障がい者等の読書環境の整備の3項目目について。資料3「目標値に対する評価一覧」の障がい者サービス利用人数の項に、取り組み方法として「サービス対象者への広報」とあるので、こちらにも「広報し」を入れてはどうでしょうか。

○p9 4-(イ)2項目目「サービス充実」の文言が重なっています。また、「バックアップを行います」の文言が、消失に備えコピーをとる意味に思ってしまった。「レファレンスサービスのための資料を積極的に収集し、サービスを向上(または「充実」)させるとともに、西館のレファレンスをバックアップ(または「支援」)します」という文面にしてはどうでしょうか。

○p10 2項目目「ブラウジングコーナー」は「閲覧コーナー」とした方がわかりやすい気がします。

○p10 3項目目「サービスポイント」は、一瞬、ポイントがもらえるのだろうかと思ってしまいました。「拠点」や「サービスポイントとしての機能」などの文言にしてはどうでしょうか。

○p10 6、職員体制には、利用しやすい書架構成や、蔵書管理、選書や企画の立案などの文言も入れた方がいいのではないのでしょうか。

- p10 目標数値について、5年後の目標値としては妥当かと思いますが、各年度の数値が思うように上がらない場合、最終年度にこの数値にもっていくのは大変だと思います。前年度+○%のように値を設定できないものでしょうか。
- P11 目標数値の「図書館実利用者数」について、用語説明を注記したほうがよいのではないのでしょうか。
- p11 文中語句の注釈について、(注4)レファレンスサービスと(注8)カウンター業務の説明文中ある「相談」の違いがわかるように、内容をもう少し詳しくお願いしたい。
- p5 第2章-(4)開館日及び開館時間について。現状週2日の休館日を変更できないのであれば、夏場に薄暮パターンとして開館を12時からとして、閉館を2時間遅らせ、働く人々が仕事帰りに来てくれるかどうかを試験的に調査してみても良いかと思います(競馬にたとえれば、園田競馬場などが園金ナイターとして夏場に集客増に成功しています)
- ICの導入に関して、機械の導入は仕事が楽になるイメージ(セルフレジのような)があり、「人員を減らせる」と考える人が多いと思います。しかし図書館においてはその専門性からこれ以上職員が減ってはいけません。なのでそこは「決してそうではない理由」を固めておく必要を感じます。

【事務局回答】

- 自動貸出機は、おっしゃる通り、無人レジのイメージです。バーコードではなく、電波により一気に読み取りを行いますので、バーコード式のレジよりはスムーズな手続きが可能です。
- 「レファレンスサービス充実のための資料」は、一般的に「レファレンス資料」と呼ばれる事典等のほか、広く市民の質問に答えるための各ジャンルの入門書や解説書、専門書等も含めた内容を意図しています。
- 「企画調整等管理的機能を本館で統括することによる効率的な運営」は、第1次方針からの継続項目です。管理的機能を本館に統括することで、より効率的な人員配置が可能になると考えています。
- 文言等に関するご指摘・ご意見は、第3案への反映を検討させていただきます。また、開館時間・IC導入についてのご指摘につきましても留意しながら方針の策定を進めてまいります。

2、令和2年度事業報告・評価について

【委員意見 令和2年度事業全般及び資料2「令和2年度栗東市立図書館活動報告」について】

- 貸出制限冊数が増えたことは非常に嬉しいです。
- 自家用車利用できない高齢者は、くりちゃんバスで図書館に行けるのですか？
- 最近の若い世代は、「調べる」ということに関してスマホを活用する人がほとんどで、以前のように本(専門書)を借りて宿題や課題を仕上げる人は減っているのが事実です。そんなスマホ世代に図書館を利用してもらうことは正直難しく感じています。しかもスマホに提示されるデータは本よりずっと新しく、利用価値が高いのです。若い人が図書館に来る目的は、「調べる」ことより、カラー

ページの多い雑誌などを読んだり、小説を借りたりすることの方が多いのかもしれません。若い世代の収入はそれほど多いとは言えないので、読みたい本を「買うより借りる方が経済的」と考えているはずです。そこを深く考慮して彼らの求める本を多く揃えていく必要があると感じます。

○活動報告p9 10、予約処理件数 提供方法別の「インターネット」「OPAC」について、インターネット予約もオンラインによるので「OPAC」ではないかと思い、調べました。ここでいうOPACとは、図書館にある端末のことですか？

○以前から「活動報告」に「統計・資料編」と書かれて、HP でも公開されていますが、この書き方ですと、別に文章を主体とした「本編」というものが存在するように受け取れますが、いかがでしょうか。

○今すぐこの「活動報告」をどう修正するかではないのですが、活動報告は、最終的に HP あるいは冊子で市民に図書館の状況(現状)を広く公開する大事な資料だと思います。市民・利用者に、もっとこの「活動報告」が目にとまり、図書館に関心を持ってもらえるように報告の項目として加えるものがないか等を職員間で検討する機会を持つてはどうかと思います。

例えば

- ① 図書館の沿革を追加する
- ② 本館、西館の施設の概要を紹介する項目を追加する
- ③ 昨年度と今年度の比較だけでなく、基本方針の期間に合わせた、統計数値の変化や事業の進捗状況等がわかる項目を加える
- ④ 開催した事業の様子がわかる写真や案内等を加える

等です。

一般的に市民の皆さんは古い資料を遡って見るということはほとんどありませんので、最新の資料の中に、図書館のことが全てわかるような情報を掲載しておくほうがいいと思います。

近隣図書館や全国の活動評価の高い図書館等の報告のまとめ方を参考にして検討してはどうでしょう。

【事務局回答】

活動報告 予約処理件数の「OPAC」は、ご指摘の通り、図書館内に設置の端末のことです。次年度の活動報告作成時に、わかりやすい文言への変更を検討させていただきます。

また、いただいたご意見を参考にしながら、どんな年代の方にも利用しやすい魅力のある図書館となるよう、市民の図書館への関心を高められるよう、努めてまいります。

【委員意見 資料3「令和2年度基本的運営方針に定めるモック表地に対する評価一覧」について】

○令和2年度の外部評価点は自己評価と同じ点数でよいと思います。

○新型コロナウイルス感染症が拡大する中、いろいろご努力されていることに対し、感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症が長期化するとともに、先行きが不透明なこともあり、評価につ

いてはやむをえない結果と考えます。

○コロナのこともあり、図書館に来ることを控えておられる市民もいらっしゃると思います。そんな中であっても、5、市民一人当たりの年間貸出冊数がそんなに減少していないのは、すごいことだと思います。

○コロナ禍なので、利用者の減少は仕方がないと思います。10冊から15冊へと変更されたことは現状に合っていると思います。

○コロナで目標に向かっての活動ができない状況ではないでしょうか。いつも目線の評価は無理だと思います。

○登録者数や貸出冊数の評価について、コロナで休館、市民も外出自粛の中では、例年のように評価できないと思います。

○一覧内に、基本的運営方針での該当箇所の記載がありますが、7には①も、9には④も該当するのではないのでしょうか。

○備考欄のコロナの影響について、登録者数や貸出冊数は休館や自粛の影響を受けるので、1、4、5、10の項目にも記載した方がよいのではないのでしょうか。

○1、年間の図書館利用登録者数について。コロナの影響による来館自粛が減につながったと思われませんが、同様にコロナの影響が大きかった令和元年度からさらに減少した要因を分析する必要があります。

○2～3、図書館実利用者数・図書館利用率について。実利用者一人あたりの年間貸出数が大幅に拡大している点は、魅力ある蔵書構築に取り組んだ成果として評価できます。

○2～3の取組み方法として、「市民のニーズに合わせた資料選定」とありますが、どのようにして市民のニーズを把握するのでしょうか。

○2～6について。お楽しみセットや一行の図書館など工夫のある企画があり、人気がありました。来館していない人への企画等のPRをどうやるかが課題かと思います。

○4・5、年間貸出冊数・市民一人当たりの年間貸出冊数について。コロナによる来館自粛により大きく影響を受けましたが、貸出制限冊数の拡大等、様々な利用拡大に対する取り組みにより、利用冊数の減少を最小限に留めることができています。

○6、おはなし会の参加人数について。コロナ禍での開催自粛はいたしかたないものと思われますが、今後の利用者参加型の開催方法について検討しなければならないと考えられます。

○6、おはなし会の参加人数について。まだまだコロナも続く気配なので、入場上限×回数で設定してもよいのではないのでしょうか。

○7、障がい者サービス利用人数について。着実に利用者拡大が図れている点は評価できます。ただし、栗東市に在住する障がいを持つ人々全体からは、まだまだ利用人数が少ない状況です。引き続き利用者拡大に向けた取り組みが望まれます。

○7、障がい者サービス利用人数について。コロナで積極的には広報できなかったのではと思いま

す。

- 8、専門職員の司書資格者の割合について。専門職員の確保が困難な時代に司書資格者の割合 100%を継続できていることはたいへん評価できます。正規職員だけでなく年度内任用職員についても司書資格者が引き続き確保に努めていただきたい。
- 9、年間蔵書購入冊数について。年間除籍冊数を差し引きすると全体の蔵書冊数は微増という状況が長年続いています。購入冊数拡大に向けた積極的な取り組みが望まれます。
- 9、年間蔵書購入冊数について。予算に対し図書価格が上昇しているのであれば、購入冊数が減り、目標に届かないのは致し方ありません。単価の低い本ばかり買うわけにもいきません。
- 10、図書回転率について。利用ニーズに合わせた資料選定が、良好な図書回転率を維持できている要因と思われ評価できます。
- 10、図書回転率について。展示・企画などよく考えられています。
- 11、郷土資料の収集冊数について。一般に公表されている地域に関する資料(馬に関する資料も含め)だけでなく、市役所が刊行する行政資料についても積極的に収集整備されている点は大きい評価できます。

【事務局回答】

「評価一覧」の外部評価・外部の意見として、別紙の通り反映させていただきました。また、コロナのようなイレギュラーな事態下での評価のあり方につきましては、今後の検討課題とさせていただきます。

3、令和3年度事業進捗状況について

【委員意見】

- 小学校では読み聞かせタイムを設定されている学校もあると思うのですが、先生のために「○年生にはこんな本の読みきかせどうですか」という情報を出すと、忙しい先生も助かると思います。
- YouTubeで本の読み聞かせをしている、と読んだことがあります、そんな情報を子育て中のママに伝えたい。
- 2年続けてリサイクルフェアがなくなったのは残念です。
- くりちゃんブック大賞楽しみにしています。(一般版ができないですか)
- 新型コロナウイルス感染症に対し、図書館における対策や図書の衛生管理等について知らせ、図書館利用の安全性を伝えてはどうかと思います。現在、家庭から外に出ることを控えておられる保護者が多く、新しい絵本の紹介等とともに、図書館の安全性をお知らせくださると安心して利用される方が増えるのではないのでしょうか。
- 西館の換気の設備工事等、設備が充実していくことは安心で、よかったと思いました。事業は秋に予定されているものもあり、実施できるとよいなと思います。

【事務局回答】

コロナの中、まだまだ通常通りの運営は難しい状態です。いただいたご意見を参考にしながら、市民の皆様ができるだけ安心して図書館をご利用いただけるよう、また、多くの本に触れる機会がもてるよう、工夫しながら図書館運営に取り組んでまいります。

4、その他

【委員意見】

- 緊急事態宣言下でも工夫して開館されていること、ありがたいです。家におこもり状態で、図書館から借りた本の読書で、助けられています。
- 学校へ司書さんに来ていただき、大変助かっています。今後とも、よろしくお願いいたします。
- 同世代の親御さんの話を聞くと、子どもの教育に関しては、これからは英語が何より大事になってくるのでは？とされています。本屋さんに並ぶ英語教材は値段が高く、基礎的な子どもの英会話入門書などがあれば借りてくれるように思います。現在の外国語絵本のコーナーに加えて、児童用の英会話本や教材をグレードアップしてみれば、栗東図書館のひとつの「売り」になるかと思います。
- 外国人へのサービスの工夫について。現状では受付横に外国語本のコーナーが設置されているだけだと認識しています。私はケニア人やフィリピン人の友人がいて、栗東図書館に連れてきたことがあります。ただ、彼らの求める本のコーナーがなく、草津のジュンク堂やブックオフに連れて行きました。彼らが求めたのは、母国語→日本語の生活対応の参考書です(例えば優しい日本語など)。もし外国人就労者のためのコーナーを設置するなら、日本の生活に対応できるようになるための彼らが本当に必要としている本を揃えることが大事だと思います。ただ、現状、栗東図書館へ外国人がたくさん来ているとは思えないので、あくまで予算的に余裕があればのお願いです。
- 本は読みたいけれど図書館へ行けない人に対しての本のお届けサービスを考えてみてください。
- 感想ですが、書面協議は対面ならすぐ解決することも文章で書かなければならず、擦り合わせもできないので、とても難しいものです。

【事務局回答】

社会情勢、市の財政状況など、厳しいことも多々ございますが、本や図書館を必要とされる方にとって頼りになる図書館となるよう、いただいたご意見を参考に、より良いサービスに努めてまいります。